

< 白金標準先物、WPIC の供給過剰の報告や PPI を受けた失望・・・ >



(出所：オアシス)

WPIC は、2021 年第 2 四半期プラチナ需給報告を発表し、昨年アングロ・コンバーター・プラント(ACP)の高炉の水漏れ事故を受けた操業停止で発生した原材料在庫 16 トンの内、9 トンを精錬した事からプラチナ製品の供給量は前年同月比で 65% (19 トン) 増加している。また 2021 年の供給量は 17% (35 トン) 増加し、需給バランスでは 6 トンの供給過剰と予想している。

東南アジアにおける新型コロナ・ウイルスの感染拡大でマレーシアの半導体メーカーは 7 日間の一部の工場で操業停止を発表、週末には生産者物価指数 (PPI) が前年同月比で 8.6% と統計開始以来の大幅な伸びを示すなど、サプライチェーンの混乱で部品供給懸念が示されており、白金標準先物価格は 8 月の安値 3382 円を下回るなど、底入れ雰囲気を見せる事無く、3300 円を試す値動きが予想される。 (2021 年 9 月 12 日記載)

<テクニカル>

白金標準先物の日足を MACD と RCI で見た場合は、MACD がシグナルを下回り、弱気の転換を示し、RCI でも短期が長期を下回りながら短期と長期が下げており、反転のクロスが発生までは新規買いは避けた方が良いと思える。ただ日足と 10 日移動平均線の乖離が拡大しており、目先 3500 円に向けた自律反発には注意したい。

<データ>

NYMEX 指定倉庫在庫 (トロイオンス) : 532270 (前週比-302)

世界プラチナ ETF 残高 (トン) : 72.13 (前週比-0.56)